

## 情勢報告

## 天敵利用や温存方法をみんなで情報交換（JA土佐あき羽根支所ナス部反省会）



うーん、そうやったか。

JA 土佐あき羽根支所ナス部では、6 月 29 日に平成 23 園芸年度の反省会を生産者 14 名の参加で開催した。

振興センターからは土着天敵の安定利用に向けたゴマを使った温存方法と 18t どりに向けた篤農家技術を紹介した。また JA からは天敵利用の際に新たに問題となりそうな害虫の紹介や農薬の混合剤の安全使用指導があった。

今回はほぼ全員が天敵を導入したということもあり、天敵利用技術に関する生産者の関心が非常に高く、「ゴマの種の余剰があるので融通できる」、「スワルスキーの放飼方法はどれがいい」など活発な情報交換の場となった。また、参加者は県の作成した篤農家技術事例集に真剣に見入っていた。

今後も天敵利用を定着、拡大させるため、振興センターでは情報交換を兼ねた勉強会等を開催していく。

## カンキツ新品種についての勉強会を開催（JA 土佐あき果樹部総会）



会議の様子

6 月 30 日、JA 土佐あき果樹部は会員 13 名、JA、振興センター等計 27 名の参加で総会及び勉強会を開催した。

勉強会では、振興センターが講師となり、近年品種登録された‘はれひめ’や‘西南のひかり’など、カンキツ新品種に関する試験データや試食アンケート結果、開発部会の取組経過などをスライドで説明し、出席者に新品種の特性や導入上の留意点について情報提供を行った。果樹部会では、近年、主要品目であるポンカンの低迷から補完的品目の導入を模索する動きがあり、部員の関心は高い。参加者からは「たくさん品種があり迷う。」「いくつか新品種を栽培しているので参考になった。」といった感想が聞かれた。

今後も果樹経営の安定を目指し、新品種・品目の導入について、関係機関と連携して生産者への情報提供を行う。

## 農業基礎研修講座を開催



土壌分析は土を容器に入れて・・・。

7 月 6 日安芸市の県総合庁舎で、新規就農者（5 年目まで）を対象に農業基礎研修講座を 23 名（25 名の応募）の参加を得て開催した。新規就農者に基礎的な技術を習得してもらうのが目的。講座は普及指導員を講師として、24 年 2 月まで毎月、計 8 回開催する予定。今月は、土づくりの講義や土壌分析の実習をした。参加者からは「施肥設計の計算が役に立った」、「基本の再確認ができて良かった」といった感想が聞かれた。

今後もテーマを替えて講座を開き、新規就農者を支援する。

## 23 園芸年度園芸研究会活動の締めくくり（7月8日開催）



生産者自ら成績発表

JA 土佐あき園芸研究会の主催で、約 80 人の農家や関係者が参加し、試験展示圃成績発表会及び講演会を開催した。

試験成績については、21 の課題から「IPM 技術」や「ナスの 18t ほどの検討」、「ヒートポンプを活用した農家の調査検証」について生産者が 4 題、関係機関が 3 題の発表を行い、活発な意見交換等が行われた。

このほか、振興センターから家畜糞堆肥の PR や「ナス経営を考える」について講習、その後農業技術センターや専門技術員による「重油に変わるヒートポンプ、木質ペレット加温について」の講演を実施した。

内容が盛りだくさんであったが、新たな加温方法など関心の高いものが多く、次作に向けて役立つものとなった。

## 遊休農地や集落営農の協業でゴマ栽培はじまる



【田野町大野の遊休農地がゴマ畑に】



【奈半利町大原・西ノ平のゴマ畑】

田野町大野 20a(7月 10 日)と奈半利町・大原西ノ平 8a(7月 14 日)で、ゴマの栽培をスタートした。

田野町大野では「大野倶楽部」のメンバー約 10 人の農家や振興センター等関係者が参加し、遊休農地を整備し、ゴマの播種を行った。実施圃場は 6 年間遊休農地になっていたが、半日ほどの作業でゴマ畑に生まれ変わった。

奈半利町大原・西ノ平では集落営農組織の約 12 人の農家や振興センター等関係者が参加し、共同で農地を整備し、ゴマの播種を行った。実施圃場は天敵温存圃場としても活用するとともに、ゴマの協業栽培を支援していく。